

みやこはし 京の橋しるべ 第20号

(令和4年3月発行)

◆ 交差物件と橋りょう補修工事との関係について

橋りょうとは、河川や谷等によって遮られた道路や鉄道等を繋ぐ構造物です。本市建設局では道路橋を含む道路を管理しており、当課では道路橋の補修工事を行っています。

道路等を遮る物件を交差物件と言い、交差物件の種類によって制約条件が異なることから、補修工事の施工方法は大きく変わります。そこで、今回は交差物件の違いによる施工方法の違いを紹介します。

◆ 河川に架かる橋りょう補修工事について

橋りょうとして最も多くの方がイメージされるのが以下の写真のような河川に架かる橋りょうだと思います。そこで、当課で補修工事を行った河川に架かる橋りょうについて紹介します。



河川では、概ね6月中旬から10月中旬（出水期）に梅雨や台風の到来により水位が上昇することから、概ね10月中旬から翌年6月中旬（湧水期）しか河川内での工事を実施することができません。

橋りょう補修工事では、橋脚や床版等の補修を行うための足場や土のう等の設置が必要となりますが、湧水期に工事が完了しない場合、一旦、足場や土のう等を撤去し、次の湧水期に再設置する必要があります。



出水期は水位が高く、大雨の際に足場や土のう等が残っていると洪水等の二次災害を招く恐れがあり、危険なんだ！



◆ 施工事例（河合橋・丸太町橋）

橋名：河合橋 （かわいはし）

場所：京都市左京区
下鴨宮河町
河川：一級河川 高野川
橋種：鋼非合成連続桁橋
橋長：59.3m
幅員：10.9m



床版等を補修するために、足場の設置&撤去を2回繰り返したんだよ！

橋名：丸太町橋 （まるたまちはし）

場所：京都市上京区
俵屋町
河川：一級河川 鴨川
橋種：鋼板桁橋
橋長：92.0m
幅員：22.8m



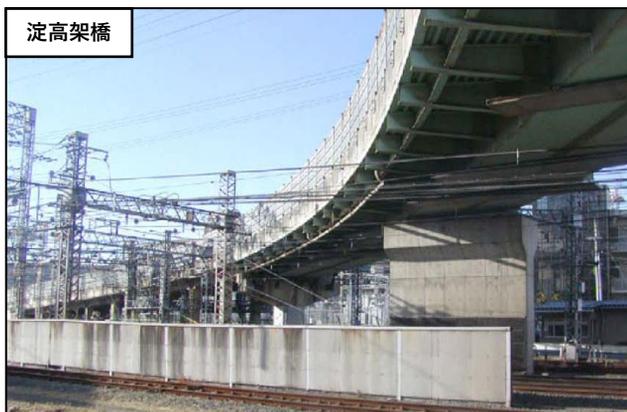
橋脚等を補修するために、土のうの設置&撤去を2回繰り返したんだよ！

以上から、河川に架かる橋りょう工事では、施工できる期間が限られることから、足場や土のう等の設置及び撤去を複数回実施することが特徴です。

◆ 鉄道に跨る橋りょう補修工事について

次に、河川に架かる橋りょうよりも制約条件が厳しい鉄道に跨る橋りょう工事の特徴について、本市の橋りょう補修工事の施工事例と共に紹介します。

淀高架橋



西中之郷橋



鉄道の軌道敷内では、終電後の配電停止から始発前の配電開始までしか作業ができないので、1日の作業時間は非常に短くなります。

加えて、床版の補修をする等の理由により足場が必要な場合には、足場は電車の通行を阻害し線路内に残置できないことから、夜間作業中に足場設置・橋りょう補修工事・足場撤去を行う必要があり、1日の施工量はさらに限られてしまいます。

また、軌道敷内には配線や信号等の様々な設備が設置されており、橋りょう工事前には必ず架線防護が必要であり、それらの点検や補修工事等も実施されるため、橋りょう工事が実施できる日数にも制限があります。

以上から、鉄道に跨る橋りょう補修工事では軌道敷内での施工時間や施工日数の確保が困難なことから、他工事よりも完了までに多くの時間を要することが特徴です。

◆ 施工事例（西中之郷橋）

橋 名：西中之郷（にしなかのこうはし）

場 所：京都市伏見区深草直違橋2丁目

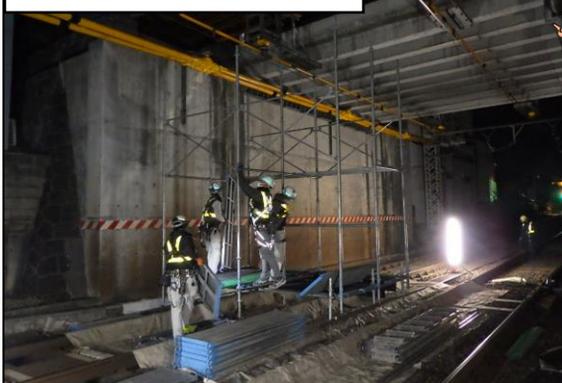
交差物件：京阪本線

橋 種：単純鉄筋コンクリートT桁橋

橋 長：8.3m / 幅 員：11.4m

電車の配線には高圧の電気が流れているから、終電後に配線の電気を止めてからじゃないと作業はできないんだよ！

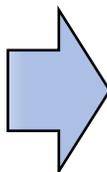
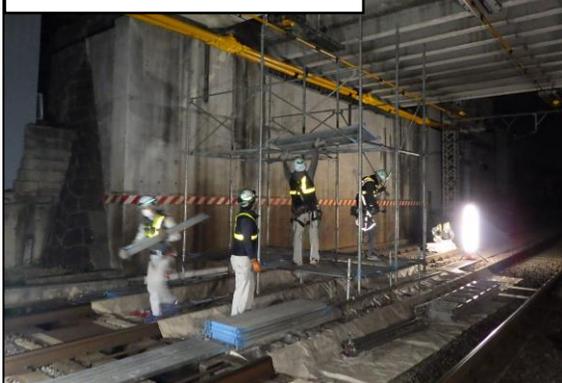
②足場設置（0時20分～1時30分）



③補修工事中（1時30分～3時20分）



④足場撤去（3時20分～4時00分）



⑤足場撤去完了（4時30分）



◆ 最後に

今回は、交差物件が河川及び鉄道となる橋りょう補修工事を紹介してきました。今回紹介した交差物件以外にも道路や谷等の交差物件があり、それぞれで制約条件や施工方法が異なります。当課では、今後も交差物件ごとに最適な施工方法を採用し、市民の財産である橋りょうの長寿命化及び耐震化に努めていきます。

◆ 京の橋の紹介⑱

京橋（きょうはし）

場 所：京都市伏見区京橋町
交差物件：一級河川 宇治川派流
橋の種類：単純鋼合成鈹桁橋
橋 長：30.7m
幅 員：16.1m
架 設 年：平成元年（1989年）



【歴史】

本橋は、安政4年（1857年）頃に一度架け替えられました。その後、戊辰戦争（1868年～：鳥羽・伏見の戦い）で大破したため、明治8年（1875年）に架け替えられました。

「従前の橋の形では、橋の路面が急勾配で通行しづらく、橋の下も橋脚数が多いため船が通行しづらかった。」「従前よりも工事費は高くなるが鉄高欄にすることで今後の修繕費用を減少させることができる」等の理由から西洋形の橋に架け替えられました。（京都府庁文書『伏見京橋損傷二付洋風造架換建築一件』・『太政類典』より出典）

近年では、平成元年の架け替えで現在の姿となり、平成29年に耐震補強及び老朽化修繕を行いました。



『淀川兩岸一覽』
文久元年（1861年）

◆ 京（みやこ）の橋しるべについて

私たち建設局橋りょう健全推進課では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を支えるかけがえのない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでいただくため「京の橋しるべ（みやこのはししるべ）」というリーフレットを定期的に発行し、市民の皆様には「橋」にかかわる様々な情報を発信しています。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたものですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして（案内して）いきたいということで名付けました。

発行・お問い合わせ 京都市建設局橋りょう健全推進課 (TEL 075-222-3561)



京都市では、橋の歴史や補修取組、有名な橋を紹介した冊子「京（みやこ）の橋しるべ」と、道路や公園などの損傷箇所を投稿するアプリ「みっけ隊」を配信しています。詳しくはWebで！ [京の橋しるべ](#) 検索 & [みっけ隊 募集中](#) 検索



& [みっけ隊 募集中](#)

